

様式 1

静岡県試験研究 10 大トピックス (農林技術研究所)

タイトル	ニホンジカ捕獲技術の開発と普及	研究期間	平成 22～24 年度
研究所 所 属	農林技術研究所	補職名	上席研究員
	森林・林業研究センター	研究者名	大橋正孝
	ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ	問合せ先	053-583-3121
研究 概 要	<p>【背景・ねらい】</p> <p>県内でシカの高密度化に伴って生じる農林業や森林生態への被害を解決するため、個体数削減効果の高いメスジカに着目し、基礎的な生態や生息密度と被害の関係などを解明し、効率的に捕獲する技術を開発する。</p> <p>【成果の内容・特徴】</p> <ol style="list-style-type: none"> シカの普遍的な行動特性として、開放的な草地等を餌場として夜間に利用していることを解明した。 シカの地域的な行動特性として、伊豆地域では狭い範囲（平均約 54ha）で生活していること、富士地域では季節移動を行い、行動範囲も約 2.5 倍と広いこと（図 1）を解明した。 これらに基づき、牧草地に侵入したシカを柵内に囲い込む捕獲方法や大規模柵を用いたくくりわなによる捕獲方法、冬に給餌をして餌付けたシカを射撃技術者が撃つ方法などを開発し、従来方法である巻き狩りの 5～80 倍となる効率的な捕獲が可能となった。 簡単で安全なわな具である「くくりわな静岡仕様」や安全で確実な新しい止めさし技術を開発した（図 2）。 <p>【成果の活用・留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> わなによる捕獲推進の提案を行った結果、県が行っているシカ管理捕獲において平成 23 年度からわな専任班による捕獲が実施され、平成 24 年度は伊豆地域で初めて年間目標捕獲頭数の 7,000 頭を達成する見込みである。 開発した「くくりわな静岡仕様」が伊豆・富士地域において 350 基以上が導入され普及している。 第 11 次鳥獣保護事業計画に大型獣の「止めさし」への空気銃の使用規制解除が盛り込まれ、平成 24 年度から使用が開始されている。 「シカ捕獲ハンドブック くくりわな編」（図 3）や「静岡のシカ問題と捕獲 Q&A」を作成し、農林業者などの被害者を対象とした技術講習会などで活用し、成果の普及を図っている。 		

* 図、写真などについては次頁に添付をお願いします。

様式 1

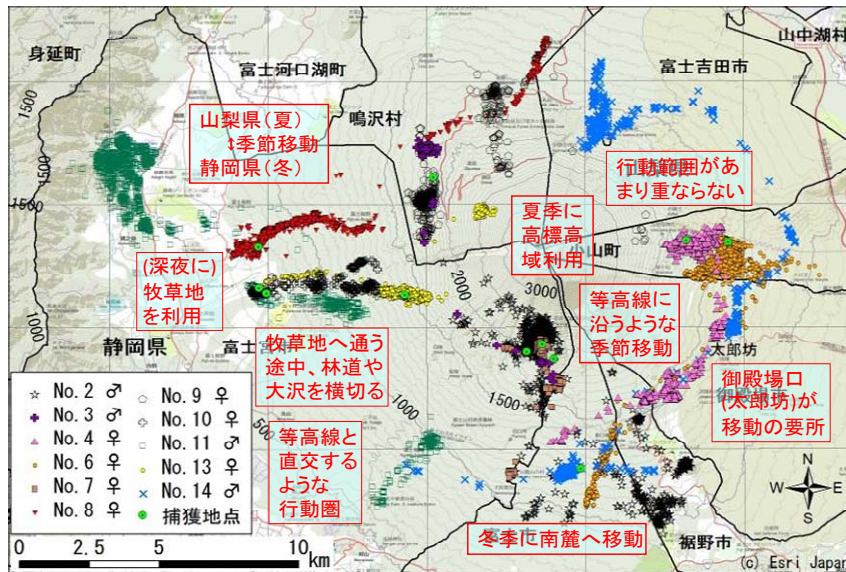
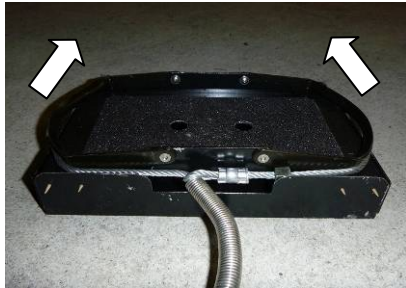


図 1 富士山における 11 頭のニホンジカの行動追跡結果

くくりわな静岡仕様



- 特徴 (1) 錯誤捕獲回避
(2) 設置時間短縮
(3) 耐久性向上

電撃器

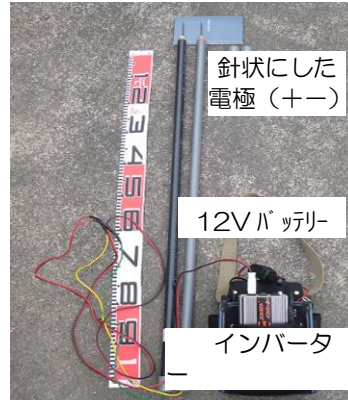


図 2 開発したくくりわな (左) と止めさし用電撃器 (右)



図 3 開発技術を普及するために「シカ捕獲ハンドブック～くくりわな編～」を作成した